

特別講演

## コルポスコピーの意義とその限界 ―細胞診所見との比較―

財団法人東京都予防医学協会 検査研究センター <sup>はせがわ</sup>長谷川 <sup>としひこ</sup>壽彦 (MD)

わが国で用いているコルポスコピー所見分類は、IFCPC (International Federation for Cervical Pathology and Colposcopy) で採択した国際コルポスコピー所見分類をわが国用に一部手直した分類である。2002 年、バルセロナで開催した IFCPC 国際学会において国際コルポスコピー所見分類の改訂が行われたので、日本婦人科腫瘍学会内にコルポスコピー所見分類検討委員会を設置し、新しい所見分類「新コルポスコピー所見分類：日本婦人科腫瘍学会 2005」を作成した。これまで使用してきた所見分類（ローマ分類）との相違について解説する。この新所見分類については、日本婦人科腫瘍学会編として図譜を発刊し、周知普及を図っている。

細胞診とコルポスコピーが、子宮頸部初期病変検出のために担う役割について、診断の方法や再現性などを比較しながら解説するとともに、細胞診とコルポスコピーがこの領域において必要不可欠な検査法であることを強調したい。

コルポスコピー所見の評価について、所見の捕らえ方および病変程度の推定 (grading) を解説する。コルポスコピー所見の評価の重要項目、白色度、腺開口所見、血管走行、血管間距離、所見の移行、所見の広がり、所見の時間的変化について、Grading も含めて、所見との対応について解説する。また細胞診との比較については、コルポスコピー所見の評価と組織診と対比させ、またコルポスコピー所見における特有な評価法にも言及しながら、細胞診評価との差異を述べる。